

令和2年
2月28日

病害虫発生予報 3月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう。

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

促成ピーマン：斑点病	1
半促成ピーマン：アザミウマ類	1
促成トマト：灰色かび病	2
促成キュウリ：べと病	2
促成キュウリ：ミナミキイロアザミウマ	3
促成トマト・促成キュウリ：オンシツコナジラミ	3
春レタス：菌核病	4

【その他の病害虫】

イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，春ハクサイ	4
-------------------------------	---

II. 今月の気象予報 5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

<HP QRコード>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病度^{*}(本年値 9.5, 平年値 4.1)は平年より高く、発生地点率(本年値 50%, 平年値 48%)は平年並である。
※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の日照時間は少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生花率(本年値 13.3%, 平年値 4.8%), 発生地点率(本年値 67%, 平年値 33%)ともに平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病株率（本年値 9.5%，平年値 1.6%）は平年より高く、発生地点率（本年値 38%，平年値 19%）は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、日照時間は少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

(令和2年1月31日発表 病害虫発生予察注意報第3号参照)

促成キュウリ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病葉率（本年値 8.8%，平年値 2.2%）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 45%，平年値 28%）は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、日照時間は少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。また、収穫終期は株の勢いが衰え、発生が増加する傾向にあるため草勢の維持に努める。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

(促成キュウリ 続き)

2. ミナミキイロアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在, 被害葉率(本年値 1.7%, 平年値 0.3%)は平年よりやや高い～高く, 発生地点率(本年値 36%, 平年値 12%)は平年より高い。
- ② 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年より高く, 発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本種は増殖が速く, キュウリ黄化えそ病等の各種病原ウイルス病を媒介するので, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は, 薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また, 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は, 影響の小さい薬剤を選択する。

(平成31年3月22日発表 病害虫発生予報4月号 防除所レポート参照)

促成トマト・促成キュウリ

1. オンシツコナジラミ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在, 促成トマトにおける寄生葉率(本年値 7.0%, 平年値 0.1%)は平年より高く, 発生地点率(本年値 13%, 平年値 3%)は平年よりやや高い。
- ② 2月下旬現在, 促成キュウリにおける寄生葉率(本年値 1.4%, 平年値 1.0%), 発生地点率(本年値 9%, 平年値 5%)ともに平年よりやや高い。
- ③ 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年より高く, 発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本種はキュウリ黄化病およびトマト黄化病の病原ウイルスを媒介する。発生が多くなると防除が困難になるため, 初期防除を徹底する。
- ② コナジラミ類は葉裏に寄生するため, 薬液は下方から吹き上げるように散布する等, 葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。また, 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は, 影響の小さい薬剤を選択する。

春レタス

1. 菌核病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	多い	県西地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病株率(本年値 6.4%, 平年値 0.6%), 発生地点率(本年値 60%, 平年値 18%)ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。
 ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。また、薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にも届くよう、十分な量で丁寧に行う。
 ③ 発病株は、菌核が形成される前に圃場外に持ち出し、適切に処分する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	ハダニ類		2月下旬現在、平年並の発生である。 気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並～ やや少ない	2月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。 気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。
トマト 促成	黄化葉巻病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
キュウリ 促成	灰色かび病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月29日から3月28日)

気象庁(2月27日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	10	80
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 2月29日(土曜日)から3月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<2週目の予報> 3月7日(土曜日)から3月13日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<3週目から4週目の予報> 3月14日(土曜日)から3月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成31年4月25日発表)の防除所レポート参照
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。